

令和元年度卒業に寄せて

令和最初の卒業生となられる皆さん、ご卒業おめでとうございます。

国からの指示という部分もあり仕方ないことではありますが、新型ウィルスの流行により、人生における大きな節目でもある卒業式がなくなりましたこと、心よりお詫びします。その代わりに、当日式辞でお話しようと思っていたことをここに書かせていただきますので、ぜひご一読ください。

私が皆さんに伝えたかったことは、「これからの時代、『意味』を考えることが重要になってくる。」ということです。昔は問題に正解を出す力が必要でした。皆さんのお爺さん、お婆さんが育った頃にはまだ洗濯機やテレビや冷蔵庫も今のように普及していなかったですし、もちろんパソコンなど影も形もありませんでした。その頃には「もっと早く移動できる手段」「家事が楽になる手段」「世界で起きていることを知る手段」などなど、解決、改良すべき問題が山のようにあって、正解を出せる人たちの努力によって世の中はものすごい勢いで便利になりました。でも、今や、正解を出す点では人間よりもコンピューターの方が勝っています。今から9年ほど前になりますが、IBMという会社が作ったAI(人工頭脳)「ワトソン」がアメリカのテレビ番組で人間のクイズ王と争って勝利しました。コンピューターがほんの10数年で億から家電並みの値段になったように、その当時は1億円近したAIも、ほどなく一般人でも購入できるような価格になるでしょう。つまり、「人間よりAIの方が安くて性能が良い」という時代はすぐそこまで来ているということです。仕事に導入された場合、人間と違って、休日もいらず24時間働くことができるAIは、会社にとっては、便利この上ありません。しかも、コストは本体と維持費のみ、たとえ年間100万円かかっても人間よりはコストパフォーマンスは良いはずです。

困ったことになりそうですが、ここで一つのヒントになる話を書きます。東大合格にチャレンジ、ということで話題を集めた「東ロボ君」というAIが4回の失敗の末、2016年に受験を諦めました。社会や数学、理科などでは高得点を上げられたのですが、英語や国語の「読解」つまり、問題文を読み解いて『意味』を理解すること、ができなかった為です。ここに、これから人間がAIと共存する時代で生きていく為の、一つのヒントが隠されているように私は思いますし、これが冒頭に「これからの時代、『意味』を考えることが重要になってくる。」と書いた理由でもあります。皆さんにとって身近だった「学校の先生」の仕事を例にとると、問題の解き方、覚え方を教えることはAI先生の、そして悩んでいる生徒の傍らに寄り添って、その声なき声を聴き、一緒に考えてあげることは人間の先生の役割、といった時代がそのうちやってくるのかもしれませんが、皆さんはどう思いますか？

もう一つ、象徴的な話を聞きましたので、お伝えします。皆さんはLCCの「ピーチ航空」という航空会社を知っていますか？苦戦を強いられているLCC業界で唯一業績が良好な会社です。その社長さんに、ある人が「ピーチは何の為に存在する会社なのか」と質問しましたが、その答えは「戦争をなくす為」というものだったそうです。理由として社長さんが話されたのは「友達がいろんな国にいるという状態にしたいんです。その為には若いうちにどんどん外国に出て、いろんな文化に触れ、たくさんの人と知り合って欲しい。あまりお金のない若い人でも乗れて、いろんな国に行ける、そういう航空会社が必要なんです。」というものでした。意味があるからコストを下げたり、路線を増やすことなどにも、より創意工夫を凝らすことができる訳です。



今回、今までには聞いたこともなかったウイルスによって、突然、世界中が混乱してしまうことになりました。その打撃を一番味わった今年の卒業生である皆さんには、今回のこの混乱を単なる降って湧いた災難というだけでなく、その中でどうすべきか、絶対的な正解のない大きな課題を与えられたとも考えていただきたいと思います。ものごとは万人に等しく起こりますが、一人ひとりの考え方、捉え方によって学びのチャンス、創意工夫のきっかけという『意味』を持ちます。どうか、これからも自分の頭で考え、行動できる人になってください。大きく動いている時代や社会の中で、皆さんが自分らしく、健康に、幸せに生きて行ってくださることを心より願っています。

令和2年3月吉日
鹿島朝日高等学校
学校長 中島佐代子